



## 何を、いつ、どのように、どうやって。

校長 伴 光明

児童・生徒の指導に当たって「見通し」という言葉を使うことがよくあります。「見通し」とは何か。先のことが分かる超能力? ちょっと違いますね。

ここでいう「見通し」とは予測する力であったり、備える力であったり、計画を立てて実行することであったりします。社会の中で**多くの人たちは、その見通す力を発揮して暮らしたり、仕事をしたりしています。**

学校の仕事の第一は「教育課程」という名前の計画をよりよいものとし、よりよく実践することです。その計画に見通しを持つようにするためには「何を いつ どのように どうやって」指導するのかを明らかにしておかねばなりません。

特別支援学校の教育課程は様々な特例を適用しているので、一見とても難解です。あきる野学園では、**みんなに分かりやすい教育課程**を目指した「**新☆あきる野プラン**」のオンデマンド実践報告会を行います。ぜひ、ご視聴ください。

オンデマンド配信型  
**実践報告会**  
**新・あきる野プランの構築**  
「何をいつどのようにどれくらい」学ぶかが分かる教育課程の改善  
配信期間 令和7年2月3日(月)～2月28日(金)

新・あきる野プランは「みんなの教育課程」です。  
保護者が分かって、安心できる教育課程。  
児童・生徒本人たちが分かって、楽しく学べる教育課程。  
さらに言うなら、  
教員が分かって、教えることが楽しくなる教育課程、です。

**本日公開!!**

私たち「あきる野」の教育課程は、これまで以上に、  
「何をいつどのようにどれくらい」学ぶかが分かる教育課程へと進化しています。  
その進化の過程を、保護者・教員・児童・生徒の皆さんに共有し、  
「新・あきる野プラン」の構築を共に進めたいと考えています。

インクルーシブ教育システムの時代に、  
学びの連続性を可視化する教育課程への提議として、  
また、学校の働き方改革——  
効率的な働き方を推進する授業づくりの提議として、  
私たちは新・あきる野プランをご報告します。

Since  1997

2月18日はあきる野学園の開校記念日です。それぞれでお祝いの気持ちをもってもらうよう、休業日(学校はお休み)としています。

## ICTを活用した学び

副校長 落合 隆一

1月は授業参観で多くの保護者の方にご来校いただきました。ありがとうございます。授業を見る中では、タブレット端末をはじめとする、ICT機器を活用しての授業も多くご覧いただけたのではないかと思います。児童・生徒にとっても、物珍しさからの興味・関心ではなく、当たり前のように触れていくもの、活用するものとしての認識へと変化してきており、新たな学びのスタイルをより定着させていく時期になっていると感じます。

大人は、自身の経験からは学校とデジタルの世界との結びつきを感じづらいところもありますが、児童・生徒にとっては日常的に触れる「文房具」としての役割に近づいてきているのでしょう。

そうした活用をより進めていくうえで、本校ではTeamsへの情報の蓄積を進めています。学習資料や学びの成果としての写真等の情報など、見通しの支援(予習)、定着・振り返りの支援(復習)に活用できる情報を、各学年のチームに掲載しています。家庭での活用に向けては、児童・生徒だけでは難しい面もあり、ご家庭の協力が必要になってまいります。子供たちとともに掲載した情報に触れていただくことで、お子様と、学校での学習内容を通じたコミュニケーションの広がりも期待されます。家庭でお持ちの端末利用のほか、一人1台端末の持ち帰り等での対応もできますので、ICTを通じて学校と家庭をつないだ充実した学びを、共に推進していきましょう。

## 一人通学に向けて

生活指導部

一人で行動できる範囲が広がることは、卒後に向けた進路選択の幅が広がるとともに、活動の幅が広がるなど、生活を豊かにするためにも大きな力になります。そこで児童・生徒に合わせながら段階的に一人通学に向けた取り組みを行っています。

安全に進めていくために、十分に練習をして一人通学ができるようにしていきます。このために、保護者の方には、練習開始時に「一人通学練習申請書」、正式に一人通学ができるようになったら「通学届」を提出していただきます。

練習を始めるにあたっては、週1回から少しずつ回数を増やしたり、通学経路の一部から始めて少しずつ距離を伸ばしたりと、着実に取り組んでいくことが大切です。また、位置探索機能のある端末を携帯することで万が一の際にも本人のおおよその居場所が分かり安心です。進級や進学に向けた取り組みも始まる中、担任と相談しながら進めていきましょう。

## 卒後に向けて（進路決定とは？）

進路指導部

両部門3年生の卒後の進路先が徐々に決定しつつあります。

進路決定＝卒後の日中活動場所（例えば、企業就労や障害福祉サービス事業所）の決定とイメージされる方が多いかと思います。もちろんそのことは重要な決定事項の一つではありますが、ほかにも、どこに誰と住むのか？「働く」以外の活動の選択や余暇はどうするのか？ということも大切な決定事項となります。

とある企業で働く卒業生は「働く」ことを大切にしながら、学生時代から「バスケットボール」に部活動で取り組み、社会人になっても続けています。「働く」と「バスケットボール」その双方に取り組むことが生き甲斐だと教えてくれました。障害サービスを利用されている方も趣味や休日の余暇活動を楽しみにされている方は多くいらっしゃいます。

そのような卒後の生活に向けた進路決定で大切なことは、その決定への本人への関与（自分で決めた意識）だと言えます。現場実習などの「働く」ことへの学習では、いくつかの仕事種や活動場所を経験し、様々な助言や評価を受けながら自身の「働く」進路を選びます。この時に基礎となるのは、児童・生徒が自分に関わることを「知り・体験し・選ぶ」というプロセスを経てきた経験（自分のことを自分で選んできた）という力です。卒後の支援に関わる方々から、自身の気持ちを伝えてくれる方（その方法がある方）には、自然と支援者が集まり、支援の輪がしやすいとも教えていただきました。ともに児童・生徒の自分で決めることのプロセスを応援していきましょう！

